

団体登録 活動の広場



NPO 法人シニア自然大学高槻支部

「ネイチャーたかつき」

～自然の大切さを教えるシニアたち～

NPO 法人「シニア自然大学」の地域組織で、1年以上の講座を終了した高槻市在住の自然観察アドバイザーが中心となって設立したグループです。

「あくあびあ芥川」と連携して、活動の中心の場として活動しています。会員数は、53名。

毎年卒業生も新しく加わって、子どもたちや周りの人たちと共に、遊んだり、勉強したりして年間100回を超える活動をしています。

野草観察・虫探し教室、親子での参加も多い自然素材を使っの工作教室。地元小学校での「学習支援」や自然環境講座などが、活動の中心です。

自然の生き物たちが一生懸命生きていく事や、自然の中にある教材を生かして、人と触れ合いながら自然のすばらしさを



地域の多くの子どもたちに伝えていきます。

自然を守り、共存するための、物の大切さを伝えることで、ゆとりや潤いのある街づくりを目指して活動していきます。 *連絡先： 671-7974 岡田

お茶の間設計

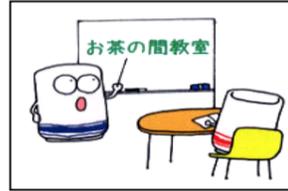
私たちが住んでいる住宅を、少しでもよりよいものにできるよう、住宅の設計を専門的に考えながら、勉強会をボランティア活動として行っています。

『お茶の間教室』住宅環境勉強会

住宅は住む人と創り手の「知恵と心の合作」であると思います。いっしょに考える勉強会です。

住宅環境とは？

自然を正しく生かし、恩恵を最大限に取り入れた住の空間。



勉強会では

- ・ 何をどうすることで「快適で健康」な生活空間が創り出せるか。
- ・ 住宅環境に最もふさわしい素材の吟味や工法についての相談とアドバイス。
- ・ 住まいの設計ノウハウを科学的に検証しながら共に勉強します。

これからも、『お茶の間教室』勉強会によって、「ひとつでも幸せな家庭が増える」ことを願って活動をしていきます。(今宮)

072-683-5799



パルケ高槻

パルケ高槻は、法人やボランティアグループへの経理システムについての支援

パソコンによる業務の効率化のお手伝い

法務や人事管理についてのアドバイス

を主目的に、平成16年4月に発足した、ボランティアグループです。

『パルケ』とは、スペイン語で「広場」と言う意味です。高槻市のボランティア活動の広場の一員として貢献できればとの願いをこめて命名しました。今までNPO法人に対し、日常の帳簿つけ、帳簿の締め切り、決算方法等の支援や経営改善に関する助言、会計処理の改善等についてお手伝いをし、決算に関する基礎的な会計講座を行ってきました。

またパソコン教室の開催や、パソコンによる業務の効率化についてもお手伝いをしています。

今後は、NPO法人やボランティアグループの、人事管理、法務管理に関するお手伝いもしていきたいと考えています。

*パルケ高槻の利用を考えられる方は 坂本孝信 E-Mail : taka-saka@tcn.zaq.ne.jp までご一報ください。



*

編集後

長かった夏が蝉の声とともに去り、朝夕はずいぶん涼しくなりました。サポートセンターも秋の行事が目白押しです。この後、「フリーマーケット」から始まって、「行政とNPOの交流会」の第2弾、「助成金講座」12月の「フェスタ」まで、スタッフは忙しいけれど充実した日々を送っています。参加者の満足が、私たちへのご褒美です。活動のご相談でもどうぞ気軽に事務所にお出かけください。お待ちしております。 衣川

高槻市市民公益活動サポートセンターニュース

e-mail:koueki-suport1504@aurora.ocn.ne.jp

http://www.takatsuki kouekisuport.com/

発行 2007年(平成19)10月15日
高槻市市民公益活動サポートセンター
住所 〒569-0056 高槻市城南町3-1-1
西大冠小学校内
電話 072-674-3400
Fax 072-674-3401

NPO

共通の課題をいっしょに行政

「協働のためのテーマ別交流会」が始まりました。

サポートセンターは、行政とNPOとの実りある協働の実現を図り、住民サービスの充実とNPO活動の活性化を図るため、「テーマ別交流会」を市と共催で開催することになりました。地域の課題解決に取り組んだり、住民サービスの充実をすすめていたりしているNPOと高槻市の関係課の職員とが、ひとつのテーブルを囲み、意見交換を行うことにより、地域や社会的課題の共有化を図るとともに、NPOがその特性を發揮できる分野で協働をいっそう推進し、課題解決に向けた取り組みや住民サービスの充実を図ろうとするものです。テーマごとに2回程度の意見交換会の開催を予定しています。

第1回は

高齢者への生活支援

9/28(金)14:00~16:00
総合センター13階
研修室大

～ 毎日を安心して暮らせる高齢社会に向けて～
課題や問題点を出し合い、どう連携しあえるのか



今回は高齢者の生活支援に取り組んでいる「保健・福祉・医療」分野のサポートセンター登録12団体と、行政の関連8部署から12人、市民協働部長・市民参画室長、そしてプロジェクトメンバー5名の計31名が集まりました。複数の行政担当部署とNPO団体が同じテーブルで、共同テーマ(地域における高齢者の生活支援)を考えあうのは初めてのことです。

白石サポートセンター運営委員長と上田総合調整室主幹が基調報告をし、その後ワークショップに。

付箋に、個々が感じている問題点や課題を書き出し、それを地域・NPO・行政・協働の4つに分けて台紙に貼り付け、整理しました。

今回の交流会は、NPOの「要求型」ではなく、双方の「提案型」として意見交換が行われ、行政とNPO団

共同作業として、「実りある話し合いの第一歩になった」との参加者の感想が聞かれました。

縦割りになりがちな中で仕事を分担している行政と違い、フレキシブルに活動ができる市民団体間の連携の大切さも再確認されました。

次回は交流会で提示された、さまざまな課題の中から、具体化できるものに焦点を当て、実現にむけて立ち上げていくことがたいせつになってきます。



第1回第2日目は
10/22(月)
14:00~16:00
総合センター

付箋をもとに
課題を整理する

1 面	協働のための交流会	2~3 面	市民活動の現場から
2 面	NPOフェスタ・助成金講座		「不登校支援」

市民パワー100%

～ともに創ろう私たちのまち～

第3回 たかつきNPO協働フェスタ

◆12/1(土)◆生涯学習センター展示ホール&第2会議室

今回のNPO協働フェスタは、参画団体が34。これまで2回の経験を踏まえ、分野別ブースとあわせて参画団体の個々の活動紹介もできる方法を考えています。また、分野別の中でも行政との協働を生かそうと考えています。

各分野は、テーマにそったアピールをする展示方法を話し合い、形がみえてきました。

サポートセンターは今回初めて事務局を担うことになり実務面の要となるようサポートしています。当HPでも進行状況を逐次お知らせしています。ご覧ください。

きつと役立つ！！

講座が始まります。

大阪府、高槻市、サポートセンターの共同開催で、補助金と情報誌に関する講座を実施します。講師は大阪ボランティア協会より派遣されます(NPOとの協働推進パワーアップ事業)。また、この講座を受けて、引き続き、関連する実践講座をサポートセンターの主催で企画しています。ぜひご参加ください。

□「企画書のツボ講座

～公募型補助金・委託事業の申請にむけて～

(NPOとの協働推進パワーアップ事業)

- ・日時：11/15(月) 18:30～21:00
- ・会場：高槻市総合センターC601
- ・講師：永井美佳さん ・参加無料

*行政施策として実施される公募型補助金・委託事業に、企画を申請する際に参考になるお話をおきします。

□ 実践講座...申請書を書いてみよう

民間助成金に応募してみませんか

(サポートセンター主催講座)

- ・日時：11/22(木) 18:30～20:30
- ・会場：高槻市総合センターC602 ・参加無料

*実際の助成金の募集要項に従って申請書を書いてみる実践形式の講座です。また、高槻ライオンズクラブから、現在募集中の「ライオンズクラブ高槻基金」の説明にさせていただきます。

～そして年明け2008年は～

□ 読者の心をつかむ！わくわくする情報誌・広報誌の制作入門講座

(NPOとの協働推進パワーアップ事業)と、センター主催の実践講座を、2/2(土)と2/9(土)に予定しています。

シリーズ:市民公益活動の現場から・第8回「不登校支援」

今回は、「不登校支援」を取り上げます。文部科学省の定義によると、「不登校児童生徒」とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しない、あるいはしたくてもできない状況にあるため、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」とされています。平成18年度の高槻市における不登校児童生徒は、小学校71名、中学校222名でした。サポートセンター登録団体の中から、支援団体の『NPO 法人アダージョ』と『子育て不登校支援ネットクロスロード』、親の会である『希望の会』の三団体からお話を伺いました。

【NPO法人 アダージョ】 学校復帰への準備段階をサポート

『アダージョ』は、音楽用語で「ゆったり」という意味。高槻市の適応指導教室(エスペランサ)や心の教室相談員として、不登校の子どもたちとかかわってきたメンバーが中心となって立ち上げた団体です。家族以外との接触が少ない児童・生徒宅へ訪問し、共に時間を過ごす中で子どもとの信頼関係を深め、人に対する緊張感や不安を緩和させ、少しずつ外出できるように一緒に取り組んでいます。長い間学校を休んでいた子どもが登校するとき、同級生や先生方の対応や言動に敏感に反応して再び学校に行けなくなることもあります。そのようなことのないように、学校と連携をとりながら登校・通室に付き添い、状況に応じて校内で待機し、一緒に過ごしたりもします。「学校って楽しいよ」というメッセージを送りつつも、無理をせず、子どもたち一人ひとりに寄り添いながら、きめ細かい対応を心がけています。また、勉強の遅れを取り戻すための学習支援にも対応しています。

人とつながる...地域につながる... 不登校の子どもたちを支援する中で、子どもたちの、人とつながりを持っていく力が弱まっていることを感じてきました。親子で一緒に参加したり、地域の人とふれあったり、自然の中で過ごすことのできるイベントがもっと必要だ、という思いを強く持っています。以前から、小さな子から高齢者まで多世代の市民を対象とした音楽サークルを運営したり、ジャズストリートや高槻まつり、ハーフマラソンなど市内のイベントに企画・準備段階から積極的に参加してきました。今年度は、摂津峡や芥川など市内の里山を舞台に、小中学生を対象とした自然体験イベント『わくわく探検隊(日本財団助成事業)』を展開しています。これまでかかわりをもった生徒や保護者、学校の先生、地域の皆さんなどが、こうした活動に参加し、支えてくれます。アダージョの取り組みに共感して、不登校・ニートの青少年のための職業体験に協力して下さるお店や企業もできました。不登校児童・生徒を直接的に支援するだけでなく、人とつながり、地域につながっていくことができる活動に積極的に取り組みながら、子育てを多世代の市民で共に考える活動へと発展させていきたいと考えています。(072-672-5173 アダージョ)

【子育て・不登校支援ネット クロスロード】 子どもの成長を応援する

クロスロードの不登校支援の柱は大きく二つ。主に学校に行かない子どもたちのための「フリースクール部」と、家族のための「子育て・不登校支援部」です。クロスロードのフリースクールは週2回、料理をしたり、スポーツをしたり、工場見学等に出たり、時にはゲームDAYであったりと「体験自由活动」が中心です。学校に行かない子どもたちにとって安心して過ごせる居場所でありたい、自己肯定感を回復できる場所、信頼できる大人や仲間に出会える場所でありたい。そのためには、「何をするかではなく、誰と、どんな風にそれをするかが大切」と考えているからです。(他に「ギター教室」「ホームスクーリング」「訪問」の活動もしています。)

クロスロードにかかわった子どもたちの中には、信頼できる大人や仲間と出会い、自己肯定感を回復していく中で、再び学校に通い始めた子どもも多くなります。また、学校へ...ということだけではなく、多様な選択があり、それぞれの場所で成長していく子ども達がいいます。周りが子どもを信頼する関わりをすることで、子ども達は、自分で考えて自分で決めて、自分で責任をとる人に育って行くように思います。そういう子どもたちを見るにつけ、「学校だけが子どもが育つ場所ではない」と感じ、改めて、「成長する」とはどういうことかと考えさせられます。学校は出会いの場であり、楽しいこともいっぱいあるけど、しんどいこと、理不尽なこともある。そんな学校から「今はひととき距離を置きたい」という子ども達を否定するのではなく、応援したい...と思うのです。

そういう意味でも、不登校中を有意義に過ごすことが大切で、だからこそ、親へのサポートが重要です。クロスロードでは、毎月1回、親の会を開催しています。体験を分かち合う中で、まず親としての自分を受け入れ、子どもと向き合うためのヒントや元気をもって帰っていただくことをめざしています。子どもが不登校になってしまったことは大変なことですが、1度立ち止まって子育てを見直すチャンスと考えれば、この経験はプラスになります。親子がよい関係を築くことができれば、子どもが動き出した時の自信につながっていく筈です。(072-696-3223 クロスロード)

【希望の会】「子どもには力がある」

信じて待つためにも、一人で悩まないで語り合いませんか

約10年前、高槻市の不登校児童・生徒のための適応指導教室「エスペランサ」に通っていた子どもの親たちが、「親も何かしよう」と、語り合いの場を持ったのが始まりです。不登校の子を育ててきた親が経験を語り、今育てている親が不安や悩みを出し、ほっとできる場所として、月一回、公民館などに集まっています。学校のことや勉強のこと、進路や民間の支援団体に関する情報交換の場にもなってきました。

子どもが不登校になると、多くの親は、育て方が悪かったのではと自分を責めたり、どうして学校に行かないのかと子どもを責めたりしてしまいます。けれども、親同士が集まって経験を語り合い、気持ちを分かち合うことで、心が落ち着き、余裕をもって子どもに向かいあうことができるようになります。また、「不登校がいつまで続くかわからない」とは、親にとって特につらいことですが、先輩保護者から、不登校を克服して学校や社会に出て行った子どもたちの経験談をきくことで、出口の見えない道に光がさすこともあります。学びの中で、「不登校はどの子にも起こりうる」「育て方のせいではない」「子どもには立ち直る力がある」と励まされ、自分を責めず、子どもを否定せず、不登校の時期を親子の信頼を築く時機として過ごすように努めることができた人もいます。家族の中だけで悩んでいる人には、是非語り合いの輪に加わって欲しいと思います。

『希望の会』では、これまで、多くの子どもたちの不登校の経験を語り合ってきました。状況は一人ひとり違っていますが、大人から見れば些細と思えるようなことがきっかけとなって、学校に行けなくなった子どもたちが多くいます。学校の先生方には、問題の兆しが見えたとき、簡単に考えず、ナイーブな問題として慎重に対処して欲しい。また、不登校の子どもことは、担任の先生だけでなく、どの先生にも知っててほしい。いろいろな人が相談しあいながら、学校全体で対応してほしい、というのが親としての願いです。(072-675-3931 希望の会)

高槻市では・・・学校に行けない、クラスで授業を受けられない子どもたちのための適応指導教室(不登校児童生徒支援室)を、教育センターに設置。また6つの中学校に不登校支援協力員、6つの小学校に心の教室相談員を配置しています。また、平成16～18年度に実施した不登校児童生徒支援体制推進モデル事業の成果を踏まえ、各校に不登校担当者をおき、子どもたちの欠席状況に関する情報については学校全体で共有する、不登校の児童・生徒については、担任・不登校担当者・スクールカウンセラー等を中心としたチームで対応し、ケース会議をもつなどの体制をとって対応にあたっています。

取材させていただいた皆さんに、「行政に望むことは？」とおききすると、「不登校で困っている人に自分たちの活動を知らせて欲しい」と揃ってのお返事でした。必要としている人に、どのように情報を届けるかは、市民活動共通の課題でもあります。サポートセンターも、一緒に考えていきたいと思えます。